

【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、情報発信業務、食品衛生検査に係る信頼性確保業務(食品GLP業務)である。

ア 調査研究評価委員会等

(7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱第4条に基づき、川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会内部委員会(以下、「内部評価委員会」とする。)を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に本研究所で実施する全ての研究課題について、本研究所職員で組織された委員会が評価(事前評価及び事後評価)を行うもので、平成25年度の開催概要は表1のとおりである。

(4) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱第5条に基づき、川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会外部委員会(以下、「外部評価委員会」とする。)を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、特に重要なものとして採用された研究課題について、本研究所職員と外部の有識者で組織された委員会が評価を行うもので、平成25年度の開催概要は表2のとおりである。

(7) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱第1条に基づき、川崎市健康安全研究所倫理審査委員会(以下、「倫理審査委員会」とする。)を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に本研究所で実施する研究課題のうち、人を対象とする、又は人体から採取した試料等を用いる研究課題について、疫学研究に関する倫理指針等に基づき、本研究所職員と外部の有識者で組織された委員会が倫理的及び社会的観点から審査を行うもので、平成25年の開催概要は表3のとおりである。

イ 信頼性確保部門としての業務(食品GLP業務)

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及

び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。

なお、改善措置等が必要であるとされたものについて、講じた改善措置等の報告を求める等、適宜、改善指導を行った。

(7) 内部点検

収去施設(各区役所保健福祉センター衛生課、健康危機管理担当食品専門監視担当)並びに検査施設(健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、試験検査に係る書類の作成や機械器具の管理等が標準作業書に基づき、適切に行われているかの確認を行った。

(4) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、第三者機関である公益財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

平成25年度は、食品添加物や残留農薬等の理化学検査4項目、一般細菌数や大腸菌群等の微生物検査3項目、動物を用いる検査1項目について、各検査区分が担当する項目に応じ、調査に参加した。

(7) 内部精度管理

健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所に対し、信頼性確保部門が作成した実施要領に基づいた内部精度管理を実施し、Zスコア等による評価を行った。

平成25年度に信頼性確保部門により実施した内部精度管理は、食品添加物、残留農薬、一般細菌数であった。

表1 平成25年度内部評価委員会開催概要

回	第1回(事前評価)	第2回(事後評価)
研究課題数	37題(表4のとおり)	38題(表4のとおり)
開催日	平成25年6月27日(木)	平成26年3月11日(火)
開催場所	川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)大会議室	
委員長	岡部 信彦(健康安全研究所長)	
委員	今井 宏晴(健康安全研究所副所長) 入口 政信(健康安全研究所理化学担当部長) 岩瀬 耕一(健康安全研究所微生物担当課長) 三崎 貴子(健康安全研究所企画調整担当課長)	

表2 平成25年度外部評価委員会開催概要

回	第1回（事前評価）	第2回（事後評価）
開催日	平成25年10月2日（水）	平成26年3月20日（木）
研究課題数	10題（表4のとおり）	10題（表4のとおり）
開催場所	川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）大会議室	
委員長	丸山 総一（日本大学生物資源科学部教授）	
委員	小島 尚（帝京科学大学医療科学部教授） 多屋 馨子（国立感染症研究所感染症疫学センター第三室室長） 成田 哲夫（健康福祉局総務部長） 馬場 武（健康福祉局総務部企画課長） 田崎 薫（健康福祉局健康安全部長） 瀬戸 成子（健康福祉局健康安部担当部長） 益子 まり（宮前区役所保健福祉センター所長） 岡部 信彦（健康安全研究所長） 今井 宏晴（健康安全研究所副所長） 入口 政信（健康安全研究所理化学担当部長） 岩瀬 耕一（健康安全研究所微生物担当課長） 三崎 貴子（健康安全研究所企画調整担当課長）	

表3 平成25年度倫理審査委員会開催概要

開催日	平成25年10月18日（金）
研究課題数	10題（表4のとおり）
開催場所	川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）大会議室
委員長	今井 宏晴（健康安全研究所副所長）
委員	貴村 麻子（貴村法律事務所 弁護士） 住友 眞佐美（東京都健康安全研究センター所長） 美田 誠二（川崎市立看護短期大学学長・教授） 三崎 貴子（健康安全研究所企画調整担当課長） 清水 英明（健康安全研究所ウイルス・衛生動物担当課長補佐）

表4 平成25年度調査研究課題一覧

研究課題名	検査担当	研究種類	内部評価委員会		外部評価委員会		倫理審査委員会
			第1回	第2回	第1回	第2回	
食品中の食品添加物分析法の検討（殺虫剤ピペロニルブトキシド）	食品	受託研究	○	○	○	○	
「カビ毒の実態調査等に関する研究」に関する研究協力（継続）	食品	共同研究	○	○	○		
保育園調理給食における特定原材料の適正管理に向けた共同研究	食品	共同研究	○				
特定原材料に準ずるものに関する情報収集及び検査法の適応検証	食品	共同研究	○	○	○	○	
変性及び改変アレルゲンタンパク質の機器分析による解析	食品	共同研究		○			
ヘッドスペースーガスクロマトグラフ質量分析計によるクロラミン類の定量	水質・環境	経常研究	○	○			
毛髪中のヒ素分析における前処理方法の改良	水質・環境	経常研究	○	○			○
清涼飲料水中重金属の一斉分析法の検討	水質・環境	経常研究	○	○			
川崎市における新規分類EPECの潜在的保菌率から推測される全国的保菌者とその病原性について（厚生労働科学研究 砂川班 食中毒調査の精度向上のための手法等に関する調査研究）	消化器・食品細菌	共同研究	○	○	○	○	○
市中感染型MRSA（community-acquired MRSA：CA-MRSA）の分子疫学解析に関わる研究	消化器・食品細菌	共同研究	○	○			
鶏肉から分離したサルモネラ属菌、大腸菌から分離したESBL産生菌、Amp C産生菌の検出状況について	消化器・食品細菌	経常研究	○	○			
川崎市で分離した腸管出血性大腸菌、サルモネラ属菌、赤痢菌の薬剤感受性について	消化器・食品細菌	経常研究	○	○			○
薬剤耐性菌の分子疫学解析に関する研究	消化器・食品細菌	共同研究	○	○			
下痢原性大腸菌のマルチプレックスPCR法を用いた迅速検査法の検討	消化器・食品細菌	経常研究	○	○			
腸管出血性大腸菌O157の分子疫学解析（遺伝子型解析）法の検討	消化器・食品細菌	経常研究	○	○	○	○	○
カンピロバクターにおける薬剤耐性菌の出現状況について	消化器・食品細菌	経常研究	○	○			○
ブドウ球菌エンテロトキシンを検出するマルチプレックスPCR法の検討	消化器・食品細菌	経常研究	○	○			

表4 平成25年度調査研究課題一覧（続き）

研究課題名	検査担当	研究種類	内部評価 委員会		外部評価 委員会		倫理審査 委員会
			第1回	第2回	第1回	第2回	
電流検出型DNAチップを用いた食中毒原因菌の簡易自動検査技術の開発	消化器・ 食品細菌	共同研究	○	○	○		○
下痢原性大腸菌の病原性の解明に向けた研究及びヒト疾患モデルへの応用 を目指したコモンマーマーモセットの腸管病原性大腸菌感染症の病態解明	消化器・ 食品細菌	共同研究	○	○			○
コリネバクテリウムに関する研究(厚生労働科学研究 森川班 動物由来感 染症の対応に関する研究)	消化器・ 食品細菌	共同研究		○			
食品中の微生物試験法及びその妥当性評価に関する研究(厚生労働科学 研究 研究代表者 国立医薬品食品衛生研究所 五十君静信)	消化器・ 食品細菌	共同研究		○			
プール採暖槽及び公衆浴場水中のレジオネラ属菌の生息状況調査及び遺 伝子検査法の検討	呼吸器・ 環境細菌	共同研究	○	○		○	
結核菌の反復配列多型(VNTR)分析法による分子疫学調査研究	呼吸器・ 環境細菌	共同研究	○	○			○
T-スポットTB検査法の検討	呼吸器・ 環境細菌	経常研究	○				
優れた導入効率もしくは独創的機能を持つ新規ウイルスベクターの作出とそ の応用	ウイルス・ 衛生動物	共同研究	○	○	○		
感染症が疑われる患者検体を用いた感染症迅速診断キットに関する検討	ウイルス・ 衛生動物	受託研究	○	○			
インフルエンザウイルス抗原検出試薬の検討に関する検討	ウイルス・ 衛生動物	受託研究	○	○			
銀増幅イムノクロマト法を用いたインフルエンザウイルス高感度抗原検出シス テムに関する研究	ウイルス・ 衛生動物	受託研究	○	○			
感染性胃腸炎を引き起こす新型アデノウイルス65型ならびに67型候補株の 体内における感染機構の解明	ウイルス・ 衛生動物	経常研究	○	○	○	○	
哺乳類におけるアストロウイルスの進化系統樹解析	ウイルス・ 衛生動物	共同研究	○	○	○	○	
食中毒ならびに感染性胃腸炎患者から検出されるノロウイルスの分子疫学的 解析	ウイルス・ 衛生動物	経常研究	○	○		○	○
マーマーモセットにおける下痢症ウイルスの遺伝子学的解析	ウイルス・ 衛生動物	共同研究	○	○			
組換え(新型)アデノウイルスの発生に対応したアデノウイルス検査手法の確 立	ウイルス・ 衛生動物	経常研究	○	○			
感染性胃腸炎患者から検出されるロタウイルスのバイオインフォマティクス解 析	ウイルス・ 衛生動物	経常研究	○	○			○
出血性膀胱炎を引き起こすアデノウイルス11型ならびに34型組換え株の遺 伝子学的解析	ウイルス・ 衛生動物	共同研究	○	○			
アデノウイルス迅速診断キットに関する検討	ウイルス・ 衛生動物	受託研究		○			
食中毒調査の精度向上のための手法等に関する調査研究	感染症情報 センター	共同研究	○	○	○	○	
感染拡大防止に向けた効果的な疫学調査手法の検討に関する研究	感染症情報 センター	経常研究	○	○			
川崎市における感染症拡大傾向の数理モデル構築に関する研究	感染症情報 センター	共同研究	○	○		○	
川崎市におけるワクチン予防可能疾患に対するワクチン接種率に関する研 究	感染症情報 センター	経常研究	○	○			
保健所等における肝炎ウイルス検査に疫学情報を活用するための研究	感染症情報 センター	共同研究	○	○			
合計			37	38	10	10	10

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。))に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局健康安全部健康危機管理担当)に感染症情報センターを設置し、感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP*—Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局健康安全部健康危機管理担当及び各区役所保健福祉センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核362件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)の届出はなかった。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症74件、腸チフス1件、パラチフス2件の届出があり、コレラ、細菌性赤痢の届出はなかった。なお、腸管出血性大腸菌感染症については、市内の焼肉店及び保育園において集団感染事例が発生した。腸チフス1件については海外渡航歴がなく、パラチフス2件はいずれも東南アジアへの海外渡航歴があった。

四類感染症では、A型肝炎4件、チクングニア熱1件、デング熱3件、マラリア1件、レジオネラ症10件の届出があった。A型肝炎では家族内感染事例が発生した。

五類感染症では、アเมอร์バ赤痢24件、急性脳炎9件、ウイルス性肝炎9件、クロイツフェルト・ヤコブ病3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8件、後天性免疫不全症候群20件、ジアルジア症2件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症30件、梅毒21件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件、風しん500件、麻しん6件、髄膜炎菌性髄膜炎1件の届出があった。風しんについては、都市部を中心として全国的に患者数が急増し、川崎市においても同様の傾向であった。

新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の届出はなかった。

表 1 届出数（一～三類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症患者等届出数）

平成 25 年

	一類感染症	二類感染症		三類感染症						新型インフル エンザ等 感染症	指定感染症 (鳥インフルエ ンザ(H7N9))	総数
	エボラ出血熱、クリミア・ コンゴ出血熱、痘そう、 南米出血熱、ペスト、 マールブルグ病、 ラッサ熱	急性灰白髄炎、 ジフテリア、 重症急性呼吸器 症候群	結核	コレラ	細菌性 赤痢	腸管 出血性 大腸菌 感染症	腸 チフス	パラ チフス				
平成 23 年	－	－	409	－	5	26	－	－	－		31	
24 年	－	－	366	－	3	23	3	－	－		29	
25 年	－	－	362	－	－	74	1	2	－	－	77	
川 崎	－	－	98	－	－	25	－	1	－	－	26	
幸	－	－	42	－	－	3	－	－	－	－	3	
中 原	－	－	63	－	－	7	1	－	－	－	8	
高 津	－	－	43	－	－	4	－	1	－	－	5	
宮 前	－	－	34	－	－	8	－	－	－	－	8	
多 摩	－	－	49	－	－	2	－	－	－	－	2	
麻 生	－	－	33	－	－	25	－	－	－	－	25	

※平成 25 年 5 月 6 日から指定感染症（鳥インフルエンザ（H7N9））が報告対象となった。

表 2 届出数（四類感染症患者等届出数）

平成 25 年

	総数	四 類 感 染 症				
		A型肝炎	チクングニア熱	デング熱	マラリア	レジオネラ症
総数	19	4	1	3	1	10
川 崎	6	1	－	1	1	3
幸	－	－	－	－	－	－
中 原	6	－	1	1	－	4
高 津	3	2	－	－	－	1
宮 前	3	1	－	1	－	1
多 摩	－	－	－	－	－	－
麻 生	1	－	－	－	－	1

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表 3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

平成 25 年

	総数	五 類 感 染 症													
		アメーバ 赤痢	急性 脳炎	ウイルス 性肝炎	クロイツ フェルト・ ヤコブ病	劇症型 溶血性 レンサ球菌 感染症	後天性 免疫不全 症候群	ジアル ジア症	侵襲性 インフル エンザ菌 感染症	侵襲性 肺炎球菌 感染症	梅毒	バンコ マイシン 耐性腸球菌 感染症	風しん	麻しん	髄膜炎 菌性 髄膜炎
総数	635	24	9	9	3	8	20	2	1	30	21	1	500	6	1
川崎	210	5	－	3	1	2	6	2	－	4	18	1	164	4	－
幸	64	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	58	－	－
中原	99	6	3	3	1	－	10	－	1	1	1	－	72	1	－
高津	46	－	－	－	－	1	－	－	－	1	1	－	42	1	－
宮前	98	7	6	－	1	5	2	－	－	12	－	－	64	－	1
多摩	77	－	－	3	－	－	1	－	－	12	－	－	61	－	－
麻生	41	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	39	－	－

※その他の五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表 4）

例年に比べ目立った流行を示したのは、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病、性器ヘルペスウイルス感染症、クラミジア肺炎、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症であった。

RSウイルス感染症については、8月頃から患者数が増加し、例年より高いレベルで推移した。

咽頭結膜熱については、例年流行していた夏期に目立った流行を示さず、11月及び12月に患者報告数が増加した。

手足口病については、6月下旬から患者数が増加し、第31週にピーク(定点当たり13.61人)となり、

平成23年の流行に次ぐ過去2番目に大きな流行となった。

性器ヘルペスウイルス感染症については、年当初から例年より高いレベルで推移し、特に12月の報告数が多かった。

クラミジア肺炎については、平成17年を最後にしばらく報告がない状況が続いていたが、平成24年及び平成25年に1件ずつの報告があった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症については、平成24年は報告がなかったが、平成25年は例年より高いレベルで推移した。

表 4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

平成 25 年

	総 数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
総数	35,659	7,354	3,840	2,777	2,107	2,532	1,964	2,793	2,540	1,340	1,687	2,155	4,570
水痘	1,543	155	121	146	132	206	154	100	53	65	77	122	212
流行性耳下腺炎	188	5	10	16	22	21	13	16	13	17	24	21	10
百日咳	11	-	-	-	2	3	2	1	1	-	1	1	-
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,749	245	274	280	306	469	268	175	72	104	146	168	242
感染性胃腸炎	13,980	979	1,024	1,438	1,196	1,214	920	592	584	483	790	1,357	3,403
手足口病	3,435	17	32	9	6	49	240	1,235	1,213	270	243	80	41
伝染性紅斑	388	16	15	10	17	43	33	25	33	29	42	67	58
突発性発しん	1,234	76	88	98	95	123	131	116	113	108	112	89	85
ヘルパンギーナ	1,169	-	1	1	5	10	114	468	364	150	48	6	2
咽頭結膜熱	653	41	26	38	35	36	39	24	31	26	68	118	171
RSウイルス感染症	528	35	26	14	9	15	9	24	42	70	113	88	83
インフルエンザ	9,531	5,760	2,206	707	262	314	14	2	-	-	6	23	237
流行性角結膜炎	249	25	17	20	20	29	27	15	20	18	17	15	26
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

平成 25 年

	総 数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
総数	447	53	38	33	33	32	35	33	36	35	31	38	50
細菌性髄膜炎	3	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
無菌性髄膜炎	14	-	-	-	-	-	1	2	4	4	2	-	1
マイコプラズマ肺炎	7	2	-	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院サーベイランス	46	23	3	5	-	-	-	-	-	-	1	6	8
淋菌感染症	71	4	2	4	11	7	6	6	6	9	5	6	5
性器クラミジア感染症	152	12	18	13	13	12	19	12	10	10	13	8	12
性器ヘルペスウイルス感染症	43	3	5	2	3	4	3	3	4	4	2	2	8
尖圭コンジローマ	30	3	4	-	-	-	1	3	4	2	1	4	8
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	61	4	6	7	5	3	4	3	4	5	5	9	6
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	16	-	-	1	1	3	-	3	2	-	1	3	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平成 25 年 10 月から感染性胃腸炎（ロタウイルス）が報告対象となった。

ウ 集団施設における感染症発生情報（表 5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、保育園、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関及び市民等へ発信している。

平成 25 年において、例年に比べて報告の多かつ

た疾患は、風しん及び咽頭結膜熱であった。

風しんについては、全国的に大きな流行が発生し、例年と比べて 7.45 倍の報告があった。

咽頭結膜熱については、例年流行する夏期ではなく 12 月に最も報告数が多くなり、例年と比べて 1.66 倍の報告があった。

表 5 集団施設における感染症発生情報

平成 25 年

		総数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
総数	総数	25,075	7,194	5,360	2,025	1,304	1,916	1,199	1,566	889	648	567	920	1,487
	保育園	9,754	1,825	1,307	585	598	592	579	1,214	842	454	367	522	869
	小学校	12,654	3,882	3,447	1,290	643	1,116	581	321	43	182	190	382	577
	中学校	2,667	1,487	606	150	63	208	39	31	4	12	10	16	41
百日咳	総数	4	1	1	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—
	保育園	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小学校	3	1	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—
	中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
インフルエンザ様疾患	総数	13,616	6,364	4,695	1,355	342	525	32	7	—	—	5	62	229
	保育園	2,878	1,449	972	240	102	25	4	—	—	—	4	27	55
	小学校	8,315	3,459	3,135	971	204	337	21	—	—	—	—	32	156
	中学校	2,423	1,456	588	144	36	163	7	7	—	—	1	3	18
麻しん	総数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	保育園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	総数	437	47	28	30	43	59	47	34	11	44	33	34	27
	保育園	96	5	4	9	14	9	6	9	5	10	9	9	7
	小学校	311	41	21	21	24	45	37	21	6	30	23	24	18
	中学校	30	1	3	—	5	5	4	4	—	4	1	1	2
水痘	総数	2,636	317	149	176	260	374	297	185	75	136	122	225	320
	保育園	1,461	170	81	110	138	184	160	82	69	95	79	110	183
	小学校	1,149	142	67	66	114	188	132	101	6	40	42	114	137
	中学校	26	5	1	—	8	2	5	2	—	1	1	1	—
風しん	総数	54	1	1	3	14	17	9	4	1	3	—	1	—
	保育園	19	—	—	1	9	4	3	—	1	1	—	—	—
	小学校	22	—	1	—	4	7	4	3	—	2	—	1	—
	中学校	13	1	—	2	1	6	2	1	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	総数	298	19	8	16	16	32	24	26	15	22	48	38	34
	保育園	160	2	3	8	10	15	9	15	11	9	34	23	21
	小学校	124	15	4	8	6	15	14	8	2	13	13	14	12
	中学校	14	2	1	—	—	2	1	3	2	—	1	1	1
急性出血性結膜炎	総数	12	2	—	—	—	—	—	1	—	4	2	1	2
	保育園	5	1	—	—	—	—	—	1	—	1	1	—	1
	小学校	7	1	—	—	—	—	—	—	—	3	1	1	1
	中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	総数	577	36	26	16	22	52	65	49	32	31	29	64	155
	保育園	380	20	17	9	19	43	51	40	26	24	21	23	87
	小学校	191	15	9	6	3	9	14	9	6	6	8	41	65
	中学校	6	1	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	3
その他	総数	7,441	407	452	428	607	856	725	1,260	755	408	328	495	720
	保育園	4,754	178	229	208	306	312	346	1,067	730	314	219	330	515
	小学校	2,532	208	210	217	288	514	359	179	23	88	103	155	188
	中学校	155	21	13	3	13	30	20	14	2	6	6	10	17

2 理化学検査部門

(1) 食品担当

食品担当では、「食品衛生法」に基づく食品中の食品添加物検査、食品汚染物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査、苦情食品検査及びいわゆる健康食品の栄養成分検査等を担当している。

平成25年度は市内7保健所、市場食品衛生検査所、健康安全部、教育委員会、学校給食会及び港湾局から搬入された食品等300検体、1,132項目について検査を実施した。

川崎市食品GLPの対応としては、内部精度管理として食品添加物(サッカリン、安息香酸及び許可酸性タール色素)、外部精度管理として食品添加物(ソルビン酸及びスルファジミジン)、麻痺性貝毒及び遺伝子組換え食品(コメ)の検査を実施した。

また国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部長からの依頼により、定性リアルタイムPCR法を用いた遺伝子組換えサケ(*AquAdvantage*系統)の妥当性確認試験(コラボレーション試験)への協力を行った。

ア 食品添加物検査

412項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)について使用基準に係る検査を実施した(表1)。結果はすべて使用基準を満たしていた。

イ 残留動物用医薬品検査

国産及び輸入畜水産食品中の残留動物用医薬品16項目について検査を実施したが、すべて残留基準値以下であった。検査を実施した項目の内訳を表2に示す。

ウ 遺伝子組換え食品検査

大豆、トウモロコシ加工品、コメおよびその加工品、パパイヤ及び小麦加工品計29検体の遺伝子組換え食品検査を実施した。結果はすべて不検出または陰性であった(表3)。

エ 特定原材料検査

卵、乳、落花生を対象に20検体について特定原材料検査を実施した(表4-1、表4-2)。

特定原材料の表示がなく、使用または混入が確認された検体が乳で1件あった。

オ 自然毒検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝を含

め、市内流通食品7検体について貝毒検査を実施した。また、ふぐ毒検査を2検体及びかび毒検査を4検体実施した。結果はすべて基準値以内であった(表5)。

カ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当検査室へ搬入された検体は 4 検体であった。その結果を表 6 に示す。

表1 食品化学検査内訳

検査内容				項目数	
食品中の食品添加物	保	存	料	157	
	合	成	着 色 料	48	
	発	色	剤	24	
	甘	味	料	52	
	漂	白	剤	20	
	酸	化	防 止 剤	25	
	品	質	保 持 剤	13	
	防	か	び 剤	20	
	不	許	可 添 加 物	53	
	小	計			412
食品汚染物	ふ	ぐ	毒	2	
	貝			毒	14
	か	び	毒	10	
	動 物	用	医 薬 品	477	
	小	計			503
規格	牛			乳	12
	乳	製	品	15	
	小	計			27
食 品 の 品 質 等 の 試 験				91	
遺 伝 子 組 換 え 食 品 検 査				52	
特 定 原 材 料 検 査				42	
食 品 成 分 検 査				5	
総 計				1,132	

表2 残留動物用医薬品検査結果

			検 体 数	項 目 数	検 査 項 目 名																
					オ キ シ テ ト ラ サ イ ク リ ン	ク ロ ル テ ト ラ サ イ ク リ ン	テ ト ラ サ イ ク リ ン	及 び テ ト ラ サ イ ク リ ン	オ キ シ テ ト ラ サ イ ク リ ン	ス ル フ ア ジ ミ ジ ン	ス ル フ ア ジ ン	ス ル フ ア メ ラ ジ ン	ス ル フ ア モ ノ メ ト キ シ ン	ス ル フ ア ジ メ ト キ シ ン	ス ル フ ア キ ノ キ サ リ ン	ス ル フ ア メ ト キ サ ゾ ー ル	ス ル フ ア メ ト キ シ ビ リ ダ ジ ン	ス ル フ イ ソ ン キ サ ゾ ー ル	エ ン ロ フ ロ キ サ シ ン	オ キ ソ リ ニ ツ ク 酸	マ ラ カ イ ト グ リ ー ン
牛	筋 肉	国産	1	13				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
		輸入	1	13				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
豚	筋 肉	国産	3	31				2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2		2
		輸入	3	35				3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2		3
鶏	筋 肉	国産	4	44				3	4	4	3	4	4	4	3	3	3	3	3		3
		輸入	2	26				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2	
	卵	国産	11	115				10	11	9	8	9	9	9	8	8	8	8	8		10
乳	牛乳	国産	1	5				1	1	1			1	1							
	乳製品	輸入	3	3				3													
魚 介 類		輸入	13	190	13	13	13		13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	8	
はちみつ		国産	1	1				1													
		輸入	1	1				1													

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	試験方法	結果	
大豆穀粒	9	RRS	定量PCR	不検出	9
		LLS	定量PCR	不検出	9
		RRS2	定量PCR	不検出	9
トウモロコシ加工品	4	CBH351	定性PCR	陰性	4
	1	スクリーニング※1	定量PCR	不検出※2	1
		GA21	定量PCR	不検出※2	1
		Bt10	定性PCR	陰性※2	1
		DAS59132	定性PCR	陰性	1
コメ	1	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ	定性PCR	陰性	1
		LL601	定性PCR	陰性	1
コメ加工品	10	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ	定性PCR	陰性	10
パパイヤ	1	PRSV-SC	定性PCR	陰性	1
		PRSV-YK	定性PCR	陰性	1
小麦加工品	3	コムギMON71800	定性PCR	陰性	3

※1:4系統(Bt11、T25、Event176、Mon810)の概算合計値。 ※2:加工品のため、結果は参考値。

表4-1 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果	
卵	菓子類	6	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver. II シリーズ(卵)	不検出	5
				10 μ g/g未満	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEK 特定原材料測定キット(卵白アルブミン)	不検出	6
乳	穀類加工品	3	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver. II シリーズ(牛乳)	不検出	2
				10 μ g/g以上	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEK 特定原材料測定キット(カゼイン)	不検出	2
				10 μ g/g以上	1
	菓子類	9	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver. II シリーズ(牛乳)	不検出	5
				10 μ g/g未満	4
落花生	菓子類	2	(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEK 特定原材料測定キット(カゼイン)	不検出	9
				不検出	2
			日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver. II シリーズ(落花生)	不検出	2

表4-2 特定原材料確認検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果	
乳*	穀類加工品	1	(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEK 牛乳ウエスタンブロットキット(カゼイン)	陽性	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEK 牛乳ウエスタンブロットキット(β -ラクトグロブリン)	陽性	1

* :スクリーニング検査により特定原材料が10 μ g/g 以上検出され、製造記録に記載のないものについて実施した。

表5 自然毒検査結果

		検体数	結果	
ふぐ毒	テトロドトキシン	2	5 MU/g以下	2
貝毒	麻痺性貝毒	7	1.8 MU/g未満	7
	下痢性貝毒	7	0.05 MU/g未満	7
かび毒	総アフラトキシン	3	不検出	3
	デオキシニバレノール	4	不検出	4
	ニバレノール	3	不検出	3

表6 苦情品検査結果

品 名	苦情内容	検 査 項 目	検 査 結 果
弁当中の異物	異物	外観	大きさ:約1.5cm×1.5cm×1mm、色調:乳白色から淡黄色の異物2片、重さ:0.022g、0.015g、その他:はさみで切断可能
		鏡検(実体顕微鏡)	動物組織の形状に類似。
		FT-IR	合成樹脂及び木材に特徴的なスペクトルは確認できなかった。
そばの変色	変色	外観	断面約1.5mm×1.5mmのゆでそばの一部が、長さ約6.5mmにわたり橙色に変色していた。
		GC-MSによる定性	製造所で使用されている機械油の成分である炭化水素類は検出されなかった。
ナチュラルチーズ中の異物	異物	鏡検(生物顕微鏡)	異物は数種類のカビ(<i>Penicillium</i> sp. 他)のかたまりと推定。
ナチュラルチーズ中の異物	異物	鏡検(生物顕微鏡)	異物はカビ(<i>Geotrichum candidum</i>)のかたまりと推定。

(2) 水質・環境担当

水質・環境担当では、「水道法」に基づく飲料水(井戸水、貯水槽水等)の水質基準 48 項目(微生物項目以外)検査、「公衆浴場法」に基づく浴槽水検査、「遊泳用プールの衛生基準」に基づくプール水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「薬事法」に基づく健康食品中医薬品成分検査を担当している。

ア 飲料水検査

平成 25 年度に検査を実施した飲料水検体は 213 件であった。検査検体の内訳は、井戸水(災害用選定の生活用水井戸を含む)102 件、貯水槽水 110 件、その他 1 件であった。基準不適合項目等の検査結果を表 1 に示す。

イ プール水、浴槽水検査

遊泳用プールの衛生・安全確保対策及び公衆浴場法に基づき、市内プール水 103 件、浴槽水 182 件、計 285 件について検査を実施した。(表 2)

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品 321 検体について 13 項目の有害物質の検査を実施した。その結果、繊維製品中のホルムアルデヒドの検査において基準値を超過したものが 4 検体あった。表 3 に検査項目、製品の種類及び検体数、表 4 に違反品の内訳と検査結果を示す。違反品については追加で塩酸抽出試験を行い、パジャマについては移染によるものと推定された。また、タオルスタイについては樹脂加工由来によるものと推定された。

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水(ジュース、ミネラルウォーター等)11 検体について、6 項目(混濁、沈殿、ヒ素、鉛、カドミウム、スズ)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ おもちゃの規格基準検査

塩化ビニル製輸入おもちゃ 7 検体について、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

カ 豆類、生あんの規格基準検査

ベビーライマ豆 1 検体、白あん 2 検体についてシアン化合物の規格検査を実施したところ、3 検体とも基準に適合していた。

キ 寒天の規格基準検査

粉末寒天 2 検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2 検体とも基準に適合してい

た。

ク 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したあゆ 3 検体について PCB 等の環境汚染物質検査を実施した。その結果を表 5 に示す。

ケ 医薬品成分検査

健康安全部から搬入された健康食品 15 検体について、薬事法に基づき医薬品成分 15 項目の検査を実施した。結果はすべて不検出であった。(表 6)

表1 飲料水検査結果

種類		井戸水	貯水槽水	専用水道水	その他	計
検体数		102 (119)	110 (7)	0 (3)	1 (2)	213 (131)
不適合件数		33 (41)	2 (0)	0 (0)	0 (1)	35 (42)
不適合項目件数	一般細菌	17 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (3)
	大腸菌	10 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (14)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	鉄及びその化合物	15 (18)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (18)
	塩化物イオン	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)
	臭気	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	7 (8)
	色度	13 (5)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (5)
	濁度	7 (11)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (11)
	鉛及びその化合物	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)

():前年度

表2 プール水、浴槽水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水	103 (197)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	182 (94)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
計	285 (291)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検 査 項 目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つけまつげ用接着剤等	260	4
塩化水素、硫酸	住宅用洗剤	1	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	住宅用洗剤	1	0
容器試験	住宅用洗剤	2	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
メタノール	家庭用エアゾル製品	9	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	9	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	9	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	2	0
ベンゾ[a]アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	2	0
ベンゾ[a]ピレン	家庭用防腐、防虫木材	2	0
総 数		321	4

表4 ホルムアルデヒド基準違反の概要

品 名	分 類	測定濃度範囲(μg/g)	件 数
パジャマ	寝衣 (出生後24月以内乳幼児用)	23～34	3
タオルスタイ	よだれ掛け (出生後24月以内乳幼児用)	17	1

表5 多摩川で採取した魚介類の検査結果

(単位：ppm)

	高津地区	中野島地区	宿河原地区	基準値	定量下限値
総水銀	不検出	不検出	不検出	0.4 (暫定規制値)	0.04
銅	0.50	0.75	0.55	—	0.05
鉛	不検出	不検出	不検出	—	0.25
カドミウム	不検出	不検出	不検出	—	0.025
マンガン	2.3	8.5	4.1	—	0.025
クロム	不検出	0.07	不検出	—	0.05
亜鉛	10.2	19.6	13.5	—	0.025
ヒ素	不検出	不検出	不検出	—	0.1
トリブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
トリフェニルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
ジブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
N-ペンタデカン	4.1	16.1	4.3	—	0.002
N-ヘプタデカン	12.9	10.0	9.1	—	0.002
N-ノナデカン	0.05	0.07	0.06	—	0.002
PCB	不検出	不検出	不検出	3 (内海内湾産魚介類暫定規制値)	0.01

備考 PCB (KC-300:KC-400:KC-500:KC-600=1:1:1:1)

表6 健康食品中医薬品成分検査結果

	検査項目	検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	9	0	9
	フェンフルラミン	9	0	9
	N-ニトロソフェンフルラミン	9	0	9
	シブトラミン	9	0	9
	マジンドール	9	0	9
	クロルプロパミド	9	0	9
	トルブタミド	9	0	9
強壮成分	シルデナフィル	7	0	7
	タダラフィル	11	0	11
	バルデナフィル	7	0	7
	ホンデナフィル	6	0	6
	チオキナビペリフィル	6	0	6
	キサントアントラフィル	6	0	6
	グリベンクラミド	7	0	7
	ヨヒンビン	7	0	7

(3) 残留農薬・放射能担当

残留農薬・放射能担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査、食品・水道水・浄水発生土等の放射能検査及び食品中の重金属検査を実施した。また、多摩川で採取した魚介類の汚染実態調査としての残留農薬検査と、年末年始に掛けて発生した冷凍食品への農薬混入事件に対応して冷凍食品中のマラチオンの検査も実施した。

ア 残留農薬検査

健康安全部及び市内 7 区役所の保健福祉センター、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会から依頼のあった食品、総数 65 検体・1,484 項目(内訳、農産物及びその他の食品(48 検体・1,423 項目)、牛乳(1 検体・3 項目)、輸入食肉(6 検体・30 項目)、魚類(3 検体・21 項目)、冷凍食品(7 検体・7 項目)、について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の検査

健康安全部及び各区役所保健福祉センター依頼分の 30 検体・計 1,130 項目について検査を実施した(表 1 及び表 2)。国内産農産物のうち市内産は 18 検体・計 855 項目、その他の国内産は 12 検体・計 275 項目行った。

市内産で農薬の検出が認められた検体は、ダイアジノンが「日本なし」1 検体(0.004 mg/kg、基準値 0.1mg/kg)、フェニトロチオンが「日本なし」2 検体(0.002～0.005 mg/kg、基準値 0.2mg/kg)、フェンチオンが「日本なし」1 検体(0.004 mg/kg・基準値 0.01mg/kg)、プロチオホスが「日本なし」2 検体(0.006～0.012 mg/kg・基準値 0.1mg/kg)、ホスチアゼートが「ピーマン」1 検体(0.03mg/kg・基準値 0.1mg/kg)であり、その他は不検出であった。

その他の国内産農産物では、アルドリノ及びディルドリンが「とうがん」1 検体(0.01 mg/kg・基準値 0.1 mg/kg)、テフルトリノが「大根」1 検体(0.0013 mg/kg・基準値 0.1 mg/kg)、トリフルラリンが「きゅうり」1 検体(0.002 mg/kg・基準値 0.05 mg/kg)であり、その他は不検出であった。

なお、表 4 に農産物の残留農薬検査における検出限界濃度を示した。

(4) 外国産農産物の検査

健康安全部及び各区役所保健福祉センター依頼分の 13 検体(冷凍野菜 2 検体を含む)・計 244 項目について検査を実施した(表

3)。

検査結果で農薬の検出が認められた検体は、アルドリノ及びディルドリンが「かぼちゃ」1 検体(0.02 mg/kg・基準値 0.1 mg/kg)、クロルピリホスが「オレンジ」1 検体(0.0017 mg/kg、基準値 1mg/kg)であり、その他は不検出であった。

(ウ) 学校給食用食材の検査

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の 5 検体・計 49 項目について検査を実施した(表 5)。

検査結果は、すべて不検出であった。

(イ) 学校給食用牛乳の検査

教育委員会依頼分の牛乳 1 検体・3 項目(γ-BHC、DDT(DDD、DDE を含む)、アルドリノ及びディルドリン)について検査を実施した。

検査結果は全て不検出であった。(検出限界値 γ-BHC と DDT(DDD、DDE を含む)は 0.001 mg/kg、アルドリノ及びディルドリン 0.002mg/kg)

(オ) 輸入食肉の検査

健康安全部及び各区役所保健福祉センター依頼分の輸入鶏肉(2 検体(ブラジル産))、豚肉(2 検体(デンマーク産及び日本産))、牛肉(2 検体(アメリカ産))の計 6 検体・合計 30 項目の検査を実施した(表 6)。

検査結果は、全て不検出であった。

イ 多摩川産魚類の汚染実態調査

(7) 多摩川産あゆの残留農薬検査

健康安全部依頼分のあゆ 3 検体・合計 21 項目について検査を実施した(表 7)。

農薬の検出が認められた検体は、trans-クロルデンが 3 検体(0.005～0.008 mg/kg)、cis-クロルデンが 3 検体(0.004～0.007 mg/kg)、trans-ノナクロルが 3 検体(0.006～0.01 mg/kg)であり、その他は不検出であった。

ウ 冷凍食品中のマラチオン検査

冷凍食品への農薬混入事件に対し、健康安全部及び各保健福祉センター衛生課において情報提供や相談対応が行われ、計 7 件の検体に対して残留農薬検査を実施した(表 8)。

検査結果は、全て不検出であった。

表1 市内産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		小 松 菜	枝 豆	ト マ ト	な す	き ゆ う り	ピー マン	日本 なし					ぶ どう	ブ ロ ッ コ リ ー	ブ ロ ッ コ リ ー	こ ま つ な	こ ま つ な	き や べ つ	き や べ つ
検体数(計18)		1	1	1	1	1	1	5					1	2		2		2	
検査依頼項目数(計855)		39	38	48	41	46	43	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数(計7)		0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
検査項目	1 BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 DDT (DDD・DDEを含む)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3 EPN							○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	4 アゾシクロチン 及びシヘキサチン																		
	5 アルシカルブ																		
	6 アルトリン 及びデイルトリン		○	○	○	○	○											○	○
	7 イソプロカルブ																		
	8 イマザリル							○	○	○	○	○	○						
	9 エスプロカルブ																		
	10 エチフェンホス							○	○	○	○	○	○						
	11 エトプロホス			○		○	○						○	○	○			○	○
	12 エトリムホス	○		○				○	○	○	○	○	○			○	○		
	13 エントリン																		
	14 オキサミル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	15 カスサホス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16 カドミウム 及びその化合物																		
	17 カルハリル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18 キナルホス	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	19 クロルデン(cis-, trans-, oxy-を含む)																		
	20 クロルピリホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	21 クロルフェンピホス	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	22 クロルフルアズロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	23 クロルプロファミ							○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	24 クロロベンシレート		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	25 酸化フェンブタスズ		○	○		○	○												
	26 シアン化合物																		
	27 シェトフェンカルブ	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	28 シクロホス及びナレド	○	○	○	○	○	○												
	29 シコホール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	30 シフルベンズロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	31 シメエト	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出(検出下限値未満)

表1のつづき

(単位:mg/kg)

農産物名		小松菜	枝豆	トマト	なす	きゅうり	ピーマン	日本なし					ぶどう	プロッコリー	こまつな	きやべつ
検査項目	32 臭素															
	33 ダイアジノン	○		○	○	○	○	○	○	0.004	○	○	○	○	○	○
	34 デブフェノビド	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	35 デフルリン	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○
	36 デフルヘンズロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	37 テルブホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	38 トリアシメノール							○	○	○	○	○	○	○	○	○
	39 トクロロホシ	○	○	○	○	○	○									
	40 トリフルリン	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	41 トルクロホスチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	42 鉛及びその化合物(Pb)			○		○										
	43 パラチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	44 パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45 ヒ素及びその化合物(As ₂ O ₃)			○		○										
	46 ビラクロホス	○		○	○		○						○	○	○	○
	47 ビリダヘン			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	48 ビリミカフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	49 ビリミホスチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	50 フェナリモル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	51 フェントロチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	0.005	○	0.002	○	○	○	○
	52 フェノブカルブ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	53 フェンスルホチオン															
	54 フェンチオン							○	○	0.004	○	○	○	○	○	○
	55 フェトエート	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	56 プタミホス			○	○	○	○						○	○	○	○
	57 フルシトリネート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	58 フルトラニル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	59 フルフェノクスロン	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	60 プレチラクロール															
	61 プロチオホス							○	0.012	○	○	0.006	○	○	○	○
	62 プロピコナゾール	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	63 ヘキサフルムロン															
	64 ヘプタクロル(ヘプタクロルエポキシドを含む)	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○
	65 ヘンタイオカルブ															
	66 ヘンティメタリン	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	67 ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	68 ホスチアゼート	○		○	○	○	0.03	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	69 マラチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	70 ミクロブタニル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	71 外リブシン															
	72 メフェナセト															
	73 メプロニル							○	○	○	○	○	○	○	○	○
	74 ルフェヌロン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	75 レナシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出(検出下限値未満)

表2 国内産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		冷凍 かぼ ちや	大 根	とう がん	日 本 な し	き ゆう う り	玄 米		み か ん	たま ね ぎ	白 菜	キ ャ ベ ツ	柿
産地		北 海 道	北 海 道	神 奈 川	福 岡	群 馬	秋 田	山 形	熊 本	北 海 道	茨 城	千 葉	奈 良
検体数 (計12)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
検査項目数 (計275)		5	19	11	20	20	50	50	20	20	20	20	20
検出項目数 (計3)		0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
検査項目	1 BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)		○				○	○	○	○			
	2 DDT (DDD・DDEを含む)		○				○	○	○	○			○
	3 EPN					○	○	○			○	○	
	4 アゾシクロチン 及びシヘキサチン												
	5 アルジカルブ						○	○				○	
	6 アルドリ 及びディアル ドリ	○	○	0.01		○						○	
	7 イソプロカルブ						○	○					
	8 イマザリル						○	○					
	9 エスプロカルブ						○	○					
	10 エディフェンホス						○	○					
	11 エトプロホス				○		○	○			○	○	
	12 エトリムホス				○		○	○			○	○	
	13 エントリン												
	14 オキサミル		○				○	○			○		
	15 カズサホス						○	○	○		○	○	
	16 カドミウム 及びその化合物												
	17 カルバリル		○		○		○	○					○
	18 キナルホス						○	○	○	○			○
	19 クロルデン(cis-,trans-, oxy-を含む)												
	20 クロルピリホス		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	21 クロルフェンピホス		○			○	○	○	○	○			
	22 クロフルアズロン		○				○	○					○
	23 クロルプロファム						○	○					
	24 クロロベンジレート						○	○					
	25 酸化フェンタス												
	26 シアン化合物												
	27 ジエトフェンカルブ				○	○	○	○	○	○			○
	28 ジクロルホス及びナレド												
	29 ジコホール				○		○	○					○
	30 ジフルヘンズロン				○		○	○		○			○
	31 ジメエト		○				○	○					

○:不検出(検出下限値未満)

表2のつづき

(単位:mg/kg)

農産物名		冷凍 かぼ ちや	大 根	とう がん	日 本 な し	き ゆ う り	玄 米		み か ん	た ま ね ぎ	白 菜	キ ャ ベ ツ	柿
検 査 項 目	32 臭 素												
	33 ダイアジノン		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	34 テブフェノシド												○
	35 テフルリン		0.0013				○	○					
	36 テフルベンズロン		○				○	○		○			○
	37 テルブホス						○	○					
	38 トリアシメノール			○									
	39 トリクロホン												
	40 トリフルラリン			○		0.002	○	○			○	○	
	41 トルクロホスメチル					○					○	○	
	42 鉛及び その化合物(Pb)												
	43 バラチオン		○						○	○	○	○	
	44 バラチオンメチル		○				○	○	○	○	○	○	
	45 ヒ素及び その化合物(As ₂ O ₃)												
	46 ビラクロホス		○				○	○					
	47 ビリダベン			○	○	○	○	○					○
	48 ビリミカーブ				○		○	○	○				○
	49 ビリミホスメチル		○		○		○	○	○	○	○	○	
	50 フェナリモル				○	○			○	○			○
	51 フェントロチオン		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	52 フェノカルブ					○	○	○	○	○			
	53 フェンシルホチオン						○	○					
	54 フェンチオン				○		○	○					
	55 フェントエート				○		○	○	○		○	○	○
	56 プタミホス			○			○	○		○	○	○	
	57 フルシトリネート				○		○	○		○			
	58 フルトラニル					○	○	○			○	○	
	59 フルフェノクスロン	○		○	○	○	○	○					○
	60 プレチラクロール						○	○					
	61 プロチオホス				○	○	○	○		○	○	○	○
	62 プロピコナゾール					○			○	○			
	63 ヘキサフルムロン										○	○	
	64 ヘプタクロル(ヘプタクロルエ ポキシドを含む)	○											
	65 ヘンダイオカルブ												
	66 ヘンディメタリン								○	○			
	67 ホサロン						○	○					
	68 ホスチアセート			○		○				○			
	69 マラチオン	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	70 ミクロブタニル	○		○	○	○	○	○					○
	71 メトリブシリン												
	72 メフェナセツ						○	○					
	73 メプロニル		○				○	○					
	74 ルフェヌロン						○	○			○	○	
	75 レナシル					○			○				

○: 不検出(検出下限値未満)

表3 外国産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		かぼちや	パプリカ	オレンジ	ベビーライマ豆	キウイフルーツ	パイナップル	グレープフルーツ	パプリカ	アスパラガス	オレンジ	冷凍ほうれんそう	冷凍れんこん
産地		ニュージーランド	オランダ	オーストラリア	不明	ニュージーランド	フィリピン	南アフリカ	オランダ	オーストラリア	オーストラリア	中国	中国
検体数(計13)		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
検査項目数(計244)		20	20	20	20	50	20	20	5	19	20	20	5
検出項目数(計2)		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
検査項目	1	BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)				○							
	2	DDT (DDD・DDEを含む)	○			○						○	○
	3	EPN	○			○				○		○	○
	4	アゾシクロチン 及びシヘキサチン											
	5	アルジ'カルブ'											
	6	アルド'リン 及びテ'イルト'リン	○	0.02									
	7	イソプ'ロカルブ'				○							
	8	イマサ'リル	○	○	○		○	○		○	○		
	9	エスプ'ロカルブ'				○							
	10	エテ'イフェンホス		○		○				○			
	11	エトプ'ロホス		○	○		○			○			
	12	エトリムホス		○	○	○		○	○	○	○		
	13	エント'リン	○			○							
	14	オキサミル				○							
	15	カス'サホス		○	○					○			
	16	カド'ミウム及び その化合物											
	17	カルハ'リル		○	○	○	○	○		○		○	
	18	キナルホス		○	○	○	○	○		○		○	
	19	クロルデ'ン(cis-,trans-, oxy-を含む)											
	20	クロルピ'リホス	○	○	○	0.0017	○	○	○	○	○	○	○
	21	クロルフェン'ピホス		○	○		○			○			
	22	クロルフルアズ'ロン				○	○	○			○	○	
	23	クロルプ'ロファミ				○			○				
	24	クロロヘン'シ'レート											
	25	酸化フェン'タス'											
	26	シアン化合物											
	27	ジ'エトフェンカルブ'				○	○	○				○	
	28	ジ'クロルホス及びナレト'											
	29	ジ'コホール	○	○	○		○			○			
	30	ジ'フルヘンズ'ロン		○	○	○							
	31	ジ'メトエート	○			○	○				○	○	

○:不検出(検出下限値未満)

表3のつづき

(単位:mg/kg)

農産物名		かぼちゃ		パプリカ	オレンジ	ペビーライマ豆	キウイフルーツ	パイナップル	グレープフルーツ	パプリカ	アスパラガス	オレンジ	冷凍ほうれんそう	冷凍れんこん
検査項目	32 臭素													
	33 ダイアジノン	○		○	○	○					○			
	34 テフフェニト					○					○			
	35 テフルリン													
	36 テフルベンズロン				○	○								
	37 テルブホス													
	38 トリアジメノール					○								
	39 トリクロホン													
	40 トリフルリン					○	○	○			○	○		
	41 トルクロホスメチル				○	○	○	○				○		
	42 鉛及びその化合物(Pb)													
	43 パラチオン				○	○					○			
	44 パラチオンメチル	○			○	○	○	○			○	○	○	○
	45 ヒ素及びその化合物(As ₂ O ₃)													
	46 ビラクロホス			○		○				○				
	47 ビリタヘン	○				○	○	○				○		
	48 ビリミカーブ					○								
	49 ビリホスメチル				○	○	○	○			○	○	○	○
	50 フェナリモル				○	○	○	○				○		
	51 フェニトロチオン	○			○	○	○	○	○		○	○		
	52 フェノバルブ				○	○	○	○			○	○		
	53 フェンシルホチオン					○								
	54 フェンチオン					○	○	○				○		
	55 フェントエート					○								
	56 プタミホス	○				○								
	57 フルシトリネート		○	○	○	○				○	○			
	58 フルトラニル					○					○			
	59 フルフェノクスロン	○	○	○	○	○	○	○		○		○		
	60 プレチラクロール					○								
	61 プロチオホス		○	○	○	○			○	○	○			
	62 プロピコナゾール	○	○	○		○	○	○		○	○	○		
	63 ヘキサフルムロン					○								
	64 ヘパタクロル(ヘパタクロルエボキシドを含む)	○	○	○						○				
	65 ヘンタイオカルブ													
	66 ヘンディメタリン					○	○	○				○		
	67 ホサロン		○	○		○				○				
	68 ホスチアセート	○	○	○		○				○				
	69 マラチオン	○			○	○	○	○	○		○	○		
	70 ミクロプタニル	○				○					○			
	71 トリブシン													
	72 メフェナセット													
	73 メプロニル					○								
	74 ルフェスロン		○	○						○				
	75 レナシル	○												

○:不検出(検出下限値未満)

表4 農産物での各農薬の検出限界濃度

No.	検査項目	検出限界濃度
1	BHC($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)	0.004
2	DDT(DDD・DDEを含む)	0.003
3	EPN	0.008
4	アゾシクロチン及びビシヘキサチン	0.02
5	アルジ ⁺ カルブ ⁺	0.005
6	アルド ⁺ リン及びデ ⁺ ィルト ⁺ リン	0.006
7	イソプロカルブ ⁺	0.0003
8	イマサ ⁺ リル	0.01
9	エスプロカルブ ⁺	0.0003
10	エデ ⁺ ィフェンホス	0.004
11	エトプロホス	0.003
12	エトリムホス	0.002
13	エンド ⁺ リン	0.011
14	オキサミル	0.005
15	カス ⁺ サホス	0.004
16	カド ⁺ シム及びその化合物	0.01
17	カルバ ⁺ リル	0.005
18	キナルホス	0.005
19	クロルテン ⁺ (cis-,trans-,oxy-を含む)	0.005
20	クロルピ ⁺ リホス	0.006
21	クロルフェンピ ⁺ ンホス	0.004
22	クロルフルアス ⁺ ロン	0.05
23	クロルプロファム	0.0008
24	クロロベンシ ⁺ レート	0.0003
25	酸化フェンブ ⁺ タス ⁺	0.05
26	シアン化合物	5.4
27	シ ⁺ ェトフェンカルブ ⁺	0.002
28	シ ⁺ クロルホス及びナレ ⁺ ト ⁺	0.01
29	シ ⁺ コホール	0.002
30	シ ⁺ フルベンズ ⁺ ロン	0.05
31	シ ⁺ メエート	0.009
32	臭 素	1
33	ダイアジ ⁺ ノン	0.004
34	デブ ⁺ フェノシ ⁺ ト ⁺	0.05
35	テフルトリン	0.0008
36	テフルベンズ ⁺ ロン	0.02
37	テルブ ⁺ ホス	0.002
38	トリアシ ⁺ メノール	0.003

(単位:mg/kg)

No.	検査項目	検出限界濃度
39	トリクロホソ	0.01
40	トリフルアリン	0.002
41	トルクロホスメチル	0.0003
42	鉛及びその化合物(Pb)	0.01
43	ハラチオン	0.002
44	ハラチオンメチル	0.002
45	ヒ素及びその化合物(As ₂ O ₃)	0.1
46	ピ ⁺ ラクロホス	0.003
47	ピ ⁺ リタ ⁺ ヘ ⁺ ン	0.003
48	ピ ⁺ リミカ ⁺ ーブ ⁺	0.005
49	ピ ⁺ リミホスメチル	0.0003
50	フェナリモル	0.0005
51	フェニトロチオン	0.001
52	フェノブ ⁺ カルブ ⁺	0.01
53	フェンスルホチオン	0.002
54	フェンチオン	0.0001
55	フェントエート	0.0005
56	ブ ⁺ タミホス	0.001
57	フルシトリネート	0.002
58	フルトラニル	0.0003
59	フルフェノクスロン	0.02
60	ブ ⁺ レチラクロール	0.0003
61	ブ ⁺ ロチオホス	0.002
62	ブ ⁺ ロピ ⁺ コナゾ ⁺ ール	0.002
63	ヘキサフルムロン	0.02
64	ヘブ ⁺ タクロル (ヘブ ⁺ タクロルエポキシ ⁺ ト ⁺ を含む)	0.012
65	ベンタ ⁺ ィオカルブ ⁺	0.005
66	ベンテ ⁺ ィメタリン	0.002
67	ホサロン	0.0008
68	ホスチアセ ⁺ ート	0.01
69	マラチオン	0.0005
70	ミクロブ ⁺ タニル	0.004
71	トリブ ⁺ シ ⁺ ン	0.05
72	メフェナセット	0.0005
73	メプロニル	0.0003
74	ルフェヌロン	0.02
75	レナシル	0.0005

表5 学校給食食材の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

		米粒麦	牛乳	ほうれんそう	にんじん	みかん
検査項目数(計49)		1	3	20	20	5
検出項目数(計0)		0	0	0	0	0
検査項目	1 BHC($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)			○		
	2 DDT(DDD・DDEを含む)		○	○		
	3 EPN			○	○	
	4 アゾシクロチン 及びシヘキサチン					
	5 アルジ'カルブ'					
	6 アルドリ'ン及びデ'イルドリ'ン		○			
	7 イソプロカルブ'					
	8 イマザ'リル					
	9 エスプロカルブ'					
	10 エテ'イフェンホス					
	11 エトプロホス					
	12 エトリムホス			○	○	
	13 エント'リン					
	14 オキサミル				○	
	15 カズ'サホス					
	16 カドミ'ム及びその化合物					
	17 カルバ'リル			○		
	18 キナルホス					
	19 クロルテ'ン (cis-,trans-,oxy-を含む)					
	20 クロルピ'リホス			○	○	
	21 クロルフェ'ニピンホス				○	
	22 クロルフルアズ'ロン					
	23 クロルプロ'ロファミ			○		
	24 クロロベン'ジ'レート					
	25 酸化フェ'ン'タスズ'					
	26 シアン化合物					
	27 シ'エトフェ'ンカルブ'				○	
	28 シ'クロルホ'ス及びナレト'					
	29 シ'コホール					
	30 シ'フルヘ'ンズ'ロン					
	31 シ'トエート					
	32 臭素					
	33 ダイア'シ'ノン			○		○
	34 テ'プ'フェノ'シト'					
	35 テ'フルトリ'ン					
	36 テ'フルヘ'ンズ'ロン					
	37 テ'ル'プ'ホス					
	38 トリア'ジ'メノール					
検査項目	39 トリクロ'ロホン					
	40 トリフル'ラリン				○	
	41 トルクロ'ホス'メチル			○	○	
	42 鉛及びその化合物(Pb)					
	43 パ'ラチオン			○	○	○
	44 パ'ラチオン'メチル			○	○	○
	45 ヒ素及び その化合物(As_2O_3)					
	46 ビ'ラクロ'ホス				○	
	47 ビ'リタ'ヘン					
	48 ビ'リミ'カーブ'			○	○	
	49 ビ'リミ'ホス'メチル			○	○	
	50 フェ'ナリモル			○		
	51 フェ'ニトロチ'オン			○	○	○
	52 フェ'ノ'プ'カルブ'			○	○	
	53 フェ'ンスル'ホチ'オン					
	54 フェ'ンチ'オン					
	55 フェ'ントエート					
	56 プ'タミ'ホス				○	
	57 フルシ'トリネート			○		
	58 フルト'ラニル			○		
	59 フルフェ'ノ'クスロン					
	60 プ'レチ'ラクロール					
	61 プロ'チオホス					
	62 プロ'ピ'コナゾール					
	63 ヘキサ'フルムロン					
	64 ヘ'フ'タクロ'ル(ヘ'プ'タクロ'ルエ'ポ'キシ シ'ドを含む)					
	65 ヘ'ン'ダイ'オカルブ'					
	66 ヘ'ン'テ'イ'メタリ'ン				○	
	67 ホ'サロン					
	68 ホ'スチ'アセート				○	
	69 マ'ラチ'オン			○	○	○
	70 ミ'クロ'プ'タニル				○	
	71 メ'トリ'プ'ジ'ン					
	72 メ'フェ'ナセ'ット					
	73 メ'プロ'ニル					
	74 ル'フェ'ヌロン					
	75 レ'ナシル			○		
	76 プ'タクロール	○				
	77 γ -BHC		○			

○:不検出(検出下限値未満)

表6 食肉の検査結果

(単位:mg/kg)

原産国	ブラジル		鶏筋肉 基準値	デンマーク	日本	豚筋肉 基準値	アメリカ	牛筋肉 基準値	定量限界 濃度
試料名 検査項目	冷凍もも 正肉 (鶏肉)	鶏 もも肉		バラ (豚肉)	豚かたまり		(牛肉)		
DDT(DDD・DDEを含む)	不検出	不検出	0.3	不検出	不検出	1	不検出	1	0.0025
ディルドリン(アル ドリンを含む)	不検出	不検出	0.2	不検出	不検出	0.2	不検出	0.2	0.0025
ヘプタクロル(ヘプ タクロルエポキシドを含 む)	不検出	不検出	0.2	不検出	不検出	0.2	不検出	0.2	0.0025
プロシミドン	不検出	不検出	0.05	不検出	不検出	0.05	不検出	0.05	0.0025
ピフェントリン	不検出	不検出	0.05	不検出	不検出	0.5	不検出	0.5	0.0025

表7 多摩川産あゆの検査結果

(単位:mg/kg)

試料 検査項目	No.1	No.2	No.3	基準値	検出限界濃度
	多摩川産あゆ (高津地区採取)	多摩川産あゆ (中野島地区採取)	多摩川産あゆ (宿河原地区採取)		
trans-クロルデン	0.005	0.008	0.007	3項目合算 0.05	0.001
cis-クロルデン	0.004	0.007	0.006		0.001
oxy-クロルデン	不検出	不検出	不検出		0.003
trans-ノナクロル	0.006	0.01	0.01	cis体、trans体合算 0.01	0.005
CNP	不検出	不検出	不検出	0.01	0.005
NIP	不検出	不検出	不検出	0.01	0.005
X-52	不検出	不検出	不検出	0.01	0.005

表8 冷凍食品の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

検体	検査品目	マラチオン
1	えびとチーズのグラタン	不検出
2	ミックスピザ	不検出
3	えびとチーズのグラタン	不検出
4	チキンナゲット	不検出
5	焼きえびドリア	不検出
6	パイシート	不検出
7	ミックスピザ	不検出

不検出(検出下限値未満)

エ 放射能検査（輸入食品）

チェルノブイリ原発事故後、放射性セシウム（セシウム 134 とセシウム 137）について、平成元年から市内に流通する輸入食品を対象に行っている。

今年度は、健康安全部依頼分の 3 検体について、放射能検査を実施した（表 9）。その検査結果は、全て基準値（セシウム 134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg）以下であり、全て検出限界以下であった。

オ 放射能検査（国産食品及び環境試料）

平成 23 年 3 月 11 日の福島第一原発事故後から放射性ヨウ素（ヨウ素 131）と放射性セシウム（セシウム 134 とセシウム 137）について測定を行っている。

健康安全部、農業振興センター、教育委員会、（公財）川崎市学校給食会、港湾局港営課及び上下水道局水道水質課、環境局処理計画課から依頼のあった、総数 463 検体・計 927 項目（内訳、食品 169 検体 338 項目、水など環境試料 294 検体 589 項目）について放射能検査を実施した。

（7）市内産農産物

経済労働局農業振興センター依頼分の市内産農産物について 32 検体の検査を実施した（表 10）。

検査結果は、全て不検出（基準値（セシウム 134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg 以下））であった。

（4）市内流通食品

健康安全部依頼分の、市内に流通する食品 66 検体（内訳、一般食品 48 検体、牛乳 3 検体、乳児用食品 8 検体、飲料水 7 検体）について検査を実施した（表 11）。

検査結果は、一般食品では放射性セシウム（Cs-134）の検出が、煎茶（茶葉）1 検体に、放射性セシウム（Cs-137）の検出が、乾燥まいたけ 1 検体、煎茶（茶葉）1 検体に、認められたが、全て基準値以下であり、その他は全て不検出であった。牛乳、乳児用食品及び飲料水は全て不検出であった。

（ウ）学校給食

教育委員会及び（公財）川崎市学校給食会依頼分の 71 検体について検査を実施した（表 12）。

検査結果は、放射性セシウム（Cs-137）の検出が、魚介類加工品 1 検体に認められたが、基準値以下であり、その他は全て不検出であった。

（エ）川崎港生息魚介類モニタリング調査

健康福祉局健康安全部と環境局放射線安全推進室及び処理計画課との連携により、平成 25 年 4 月の焼却灰の埋立開始に際しての放流に伴い、外海への影響を確認するため、川崎港内（浮島埋立処分場周辺の公共用水域）で魚介類を採取し、全 56 検体についてその放射性セシウム濃度を測定した（表 13）。

検査結果は、放射性セシウム（Cs-137）の検出が、カサゴ 1 検体、シマイサキ 1 検体、スズキ 2 検体、メバル 4 検体に認められたが、全て基準値以下であり、その他は全て不検出であった。

（オ）水道水及び浄水発生土

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水 212 検体について検査を実施したところ検査結果は、全て不検出であった（表 14）。浄水発生土 1 検体の検査結果は、放射性ヨウ素（I-131）が 15.4 Bq/kg、放射性セシウム（Cs-134 及び Cs-137）がそれぞれ 101 及び 223 Bq/kg であった（表 15）。

（カ）海水

港湾局港営課より依頼のあった海水 25 検体について検査を実施した（表 16）。

検査結果は、全て不検出であった。

表9 輸入食品の放射能検査結果

(単位：Bq/kg)

No.	試料名	原産国	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
1	ミックスビーンズ	イタリア	不検出	不検出
2	トマトペースト	イタリア	不検出	不検出
3	ワインビネガー	フランス	不検出	不検出

表10 市内産農産物の放射能検査結果

(単位：Bq/kg)

品名	産地	検体数 (計32件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
うめ	麻生区	1	不検出	不検出
かき	麻生区	1	不検出	不検出
カリフラワー	高津区	1	不検出	不検出
キャベツ	高津区	1	不検出	不検出
きゅうり	麻生区	3	不検出	不検出
こまつな	中原区	1	不検出	不検出
さつまいも	麻生区	2	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出
さといも	麻生区	1	不検出	不検出
じゃがいも	高津区	1	不検出	不検出
だいこん(根)	宮前区	1	不検出	不検出
だいこん(葉)	宮前区	1	不検出	不検出
たまねぎ	高津区	1	不検出	不検出
トマト	高津区	1	不検出	不検出
	麻生区	2	不検出	不検出
なす	宮前区	1	不検出	不検出
のらぼう菜	多摩区	1	不検出	不検出
ぶどう	多摩区	1	不検出	不検出
ブルーベリー	麻生区	1	不検出	不検出
ブロッコリー	高津区	1	不検出	不検出
ほうれんそう	中原区	1	不検出	不検出
みかん	麻生区	1	不検出	不検出
らっかせい	麻生区	1	不検出	不検出
日本なし	多摩区	1	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出
	宮前区	1	不検出	不検出
	多摩区	1	不検出	不検出
	麻生区	1	不検出	不検出

表11 市内流通食品（買い上げ品）の放射能検査結果

(単位：Bq/kg)

基準値適応区分	品名	検体件数 (計66件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	アイスクリーム	1	不検出	不検出
	あま酒	1	不検出	不検出
	ウィンナーソーセージ	1	不検出	不検出
	えのき茸	1	不検出	不検出
	えのき氷	1	不検出	不検出
	かぶ酢漬	1	不検出	不検出
	ケチャップソース	1	不検出	不検出
	ごはん	1	不検出	不検出
	こんにやく	2	不検出	不検出
	さけちりめんちゃん	1	不検出	不検出
	さつま揚げ	1	不検出	不検出
	さばみそ煮	1	不検出	不検出
	さば水煮	1	不検出	不検出
	さば西京味噌漬	1	不検出	不検出
	キャベツ	1	不検出	不検出
	さんま甘露煮	1	不検出	不検出
	そば	1	不検出	不検出
	トマトペースト	1	不検出	不検出
	にぼし	2	不検出	不検出
	はちみつ	1	不検出	不検出
	ミックスビーンズ	1	不検出	不検出
	めかぶ	2	不検出	不検出
	ももジュース	1	不検出	不検出
	ヨーグルト	1	不検出	不検出
	ラフ・ランスジャム	1	不検出	不検出
	リンゴジュース	1	不検出	不検出
	ワインビネガー	1	不検出	不検出
	わかめ	1	不検出	不検出
	塩ゆで枝豆	1	不検出	不検出
	塩麴	1	不検出	不検出
	乾燥まいたけ	1	不検出	1.5
	金目鯛開き	1	不検出	不検出
	鶏むね肉	1	不検出	不検出
	鶏むね肉	1	不検出	不検出
	厚焼玉子	1	不検出	不検出
	純米酒	1	不検出	不検出
	焼きおにぎり	1	不検出	不検出
	生わかめ	1	不検出	不検出
	精米	1	不検出	不検出
	煎茶(茶葉)	1	9.6	25
	白がゆ	1	不検出	不検出
	麦茶(茶葉)	1	不検出	不検出
	米みそ	2	不検出	不検出
	野沢菜漬	1	不検出	不検出
牛乳	牛乳	3	不検出	不検出
乳児用食品	ボーロ	1	不検出	不検出
	まぐろの炊き込みごはん	1	不検出	不検出
	野菜&果物ミックスジュース	1	不検出	不検出
	卵黄かぼちゃボーロ	1	不検出	不検出
	ピーチ & ウォーター	1	不検出	不検出
	お茶	1	不検出	不検出
	経口補水液	1	不検出	不検出
飲料水	粉ミルク	1	不検出	不検出
	ミネラルウォーター	7	不検出	不検出

表12 教育委員会・学校給食用食材の放射能検査結果

区分		項目	放射性セシウム				総件数
			Cs-134のみ	Cs-137のみ	Cs-134、Cs-137		
			検出	検出	不検出	検出	
魚介類			0	0	1	0	1
魚介類	練り製品		0	0	2	0	2
加工品	その他		0	1	16	0	17
穀類及びその加工品			0	0	7	0	7
野菜果実類及びその加工品	漬物		0	0	1	0	1
	野菜果実・その他		0	0	16	0	16
豆類及びその加工品			0	0	4	0	4
乳及びその加工品	乳類		0	0	21	0	21
	乳製品		0	0	0	0	0
菓子類			0	0	2	0	2
合計			0	1	70	0	71

表13 川崎港魚介類(モニタリング)放射能検査結果

	放射性セシウム				総件数
	Cs-134のみ	Cs-137のみ	Cs-134、Cs-137		
	検出	検出	不検出	検出	
アサリ	0	0	4	0	4
カサゴ	0	1	1	0	2
クロダイ	0	0	8	0	8
コノシロ	0	0	2	0	2
サバ	0	0	2	0	2
シマイサキ	0	1	1	0	2
スズキ	0	2	9	0	11
タナゴ	0	0	1	0	1
ボラ	0	0	9	0	9
メジナ	0	0	8	0	8
メバル	0	4	3	0	7
合計	0	8	48	0	56

表14 水道水等の放射能検査結果

		放射性セシウム				総件数
		Cs-134のみ	Cs-137のみ	Cs-134、Cs-137		
		検出	検出	不検出	検出	
長沢水道水	原水	0	0	53	0	53
	配水	0	0	53	0	53
生田水道水	原水	0	0	53	0	53
	配水	0	0	53	0	53
合計		0	0	212	0	212

表15 浄水発生土の放射能検査結果

(単位 : Bq/kg)

試料名	試料採取年月日	採取場所	放射性ヨウ素	放射性セシウム	
			I-131	Cs-134	Cs-137
浄水発生土	平成25年9月5日	生田浄水場 2号ベルトコンベア	15.4	101	223

表16 川崎港付近の海水の放射能検査結果

表10 川崎港付近の海水の放射性セシウム	放射性セシウム				総件数
	Cs-134のみ	Cs-137のみ	Cs-134、Cs-137		
	検出	検出	不検出	検出	
	検出	検出	不検出	検出	
海水	0	0	25	0	25
合計	0	0	25	0	25

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系の感染症検査では、感染症法に基づく届出や市内の食中毒の発生により、消化器症状(下痢、腹痛等)を呈した患者や接触者患者から腸管系感染症(赤痢菌、コレラ菌、腸・パラチフス菌、腸管出血性大腸菌 O157 等)の分離・同定を行い、市内における被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防のため、川崎市食品衛生監視計画に基づき市内7保健所及び市場食品衛生検査所から搬入された市内流通食品(食肉製品、乳製品、弁当類、惣菜等)について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査(細菌数、大腸菌群数、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌 O157 等)を実施している。また、食中毒菌汚染実態調査や教育委員会並びに(公財)川崎市学校給食会からの検体についても衛生検査を実施している。

ア 腸内細菌

(7) 感染症細菌検査

感染症法に基づく感染症細菌検査は 620 検体について実施した。腸管出血性大腸菌 O157 121 検体、腸チフス 1 検体、パラチフス 2 検体が陽性となった。

(4) 食中毒発生状況

平成 25 年度の食中毒検査は、835 検体が搬入された。発生状況は表1に示すとおりである。

表1 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
O145:H-	VT1	62
O145:H-	VT2	5
O157:H7	VT2	29
O157:H7	VT1&2	14
O157:H-	VT1&2	1
O103:H2	VT1	3
O111:H-	VT1	2
O111:H-	VT1&2	1
O26:H11	VT1	1
O186:H2	VT1	2
計		120

表2 市内細菌性食中毒発生事例(平成25年4月～平成26年3月)

No.	発生日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品 (種別)	病因物質	原因施設	喫食場所
1	25. 6.16	35	9	0	その他 (6.14提供の食事)	カンビロバクター・ジェジュニ	飲食店	同左
2	25. 9.27	77	29	0	その他 (9.24から10.6提供の食事)	腸管出血性大腸菌 O157	飲食店	同左
3	26. 1.19	3	3	0	その他 (1.17提供の食事)	カンビロバクター・ジェジュニ	飲食店	同左

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 3 に示すとおりである。平成 25 年度の総検体数は 2,304 検体あり、不適項目（食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準による）は、延 232 件（10.1%）で、食品衛生法成分規格違反は無く、川崎市衛生指導基準による不適件数であった。

不適率の高い検体は魚介類その他（26.6%）、調理パン（25.6%）、生食用鮮魚介類（22.6%）、弁当類（22.2%）、漬物（19.6%）、生菓子（18.2%）、豆

腐（12.9%）、非加熱そう菜（12.7%）、手指拭取（11.3%）であった。

次に、食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そう菜、器具拭取、食肉、弁当類に、サルモネラ属菌や大腸菌、カンピロバクターは食肉に、セレウス菌は非加熱そう菜や豆腐に、黄色ブドウ球菌は手指拭取、非加熱そう菜、生菓子から検出された。

表 3 食品細菌基準違反件数および検出状況（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

		違反 件数	検 体数	一 般 細菌 数	大 腸 菌 群	黄 色 ブ ドウ 球 菌	サル モ ネ ラ 属 菌	セ レ ウ ス 菌	ウ ェ ル シュ 菌	E H E C 0 1 5 7	E H E C	大 腸 菌	E ・ c o l i	E ・ c o l i (M P N)	腸 炎 ビ ブリ オ	腸 炎 ビ ブリ オ (M P N)	真 菌 類	カン ピ ロ バ ク ター	N A G ビ ブリ オ	コレ ラ 菌	赤 痢 菌	その 他の 食 中 毒 菌	リス テ リア 菌	ボ ツ リ ヌ ス 菌	緑 膿 菌	腸 球 菌	クロ スト リ ジ ウム 属 菌	そ の 他	総 数		
魚介類及び その加工品	生食用生かき	0	0.0%	5	0	1	-	0	-	-	0	-	-	0	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	生食用鮮魚介類	7	22.6%	31	1	7	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	8	
	魚肉ねり製品	0	0.0%	12	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	そ の 他	17	26.6%	64	10	10	0	0	-	-	0	0	-	0	-	4	-	-	-	1	0	0	-	0	-	-	-	-	-	25	
食肉及び その加工品	食肉	0	0.0%	78	0	22	0	13	-	-	0	0	3	0	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	42	
	生食用食肉	0		0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
	食肉製品	0	0.0%	10	0	0	0	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	0	
卵及び その加工品	卵	0	0.0%	6	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	卵加工品	0		0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
乳及びその加 工品	乳	0	0.0%	3	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	乳製品	0	0.0%	3	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	
	乳類加工品	0	0.0%	3	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	
穀類・豆類及 びその加工品	めん類	0	0.0%	31	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	豆腐	4	12.9%	31	3	3	0	0	5	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	
	そ の 他	0	0.0%	2	0	0	0	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
野菜・果物及 びその加工品	漬物	11	19.6%	56	11	11	0	0	1	-	0	0	0	0	-	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	23	
	野菜果物・その他	0	0.0%	86	0	1	0	0	0	-	0	0	5	0	-	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	6
弁当類	弁当類	28	22.2%	126	11	22	1	0	0	-	0	0	-	3	-	1	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38
	調理パン	10	25.6%	39	8	6	0	0	0	-	0	0	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
そうざい類	非加熱そう菜	45	12.7%	355	38	99	3	0	20	0	0	0	10	-	0	-	-	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	0	170
	加熱そう菜	15	3.7%	410	3	15	0	0	1	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	19	
調味料(みそ・しょうゆ等)		0	0.0%	7	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
菓子類	生菓子	24	18.2%	132	7	18	3	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
	菓子	0	0.0%	9	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
清涼飲料水・粉末清涼飲料		0	0.0%	13	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	0
冷凍食品		0	0.0%	11	0	1	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
氷菓		0	0.0%	6	0	0	0	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
レトルト		0	0.0%	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
その他の食品		0	0.0%	24	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	-	0	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
ふきとり	器具拭取	48	9.6%	499	15	42	1	0	0	-	0	-	-	0	-	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58
	手指拭取	20	11.3%	177	9	13	3	0	2	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
	そ の 他	3	4.2%	72	1	3	2	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
ふきん・おしぼり		0		0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
違反件数合計		232			117	274	13	13	29	0	0	0	8	15	0	5	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	479
年間件数合計				2,304	2,126	2,121	2,007	1,314	589	39	906	412	86	1,289	5	163	35	39	64	22	14	33	16	34	9	2	2	3	61	11,391	
%				10.1	5.5	12.9	0.6	1.0	4.9	0.0	0.0	0.0	9.3	1.2	0.0	3.1	0.0	0.0	4.7	4.5	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	

(※)「一般細菌件数」の数値は基準違反件数、「大腸菌群」～「その他」までの数値は検出件数)

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・百日咳菌などの呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(7) 塗抹・培養検査・遺伝子検査

結核登録患者管理者検診、結核患者接触者健診対象者に対して実施した。遺伝子検査として LAMP 法を行った。件数および結果は、表1に示すとおりである。

(4) I G R A 検査

結核患者接触者健診において、9月までは QFT 検査、12 月以降は T-SPOT・TB 検査を新たに導入し実施した。QFT 検査の総数は 140 件。T-SPOT・TB 検査は 231 件だった。男女比および検査結果は、表 2～表 5 に示すとおりである。

(ウ) 結核分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、25 年度より川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を行った。過去に結核研究所で RFLP 検査を行った株の DNA と、新たに搬入された菌株、併せて 115 件について疫学情報とあわせて解析を行った。

イ レジオネラ属菌検査

「レジオネラ症防止指針」に記載されている「ろ過濃縮法」を用い検査を実施した。患者由来の検体や、浴槽水、冷却塔水等の環境水中のレジオネラ属菌の分離培養、遺伝子検査として LAMP 法を行った。レジオネラ属菌検査の総数は 282 件、LAMP 法は 121 件だった。各検査材料別の件数および血清型は表 6 に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

(7) 百日咳菌検査

H25 年度の検査依頼はなかった。

(4) 溶血性レンサ球菌検査

H25 年度は 2 件の搬入があり、2 件とも Lancefield A 群だった。T 型別は T11、T1 であった。

表1 結核塗抹・培養検査

	塗抹・培養検査	LAMP法
管理検診	154	1
接触者健診	4	
その他	2	
計	160	1

塗抹陽性(0件)、培養陽性(1件)

表2 QFT検査

	依頼件数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
H25年度	140	13(9.2%)	11(7.9%)	116(82.9%)	0(0%)

表3 QFT結果

		男				女				
	件数	陰性	陽性	判定保留	判定不可	件数	陰性	陽性	判定保留	判定不可
10歳未満	3	3				1	1			
10～19	12	11	1			8	6		2	
20～29	23	19	3	1		13	12		1	
30～39	17	16		1		7	7			
40～49	9	6	3			16	14	1	1	
50～59	17	12	2	3		7	3	2	2	
60以上	3	2	1			4	4			
合計	84	69	10	5		56	47	3	6	
合計(%)	60.0%	49.3%	7.1%	3.6%		40.0%	33.6%	2.1%	4.3%	

表4 T-SPOT・TB検査

	依頼件数	陽性	陽性 判定保留	陰性 判定保留	陰性	判定不可
H25年度	231	13(5.6%)	7(3.0%)	9(3.9%)	192(83.6%)	9(3.9%)

表5 T-SPOT・TB検査結果

男							女					
	件数	陰性	陽性	陽性 判定保留	陰性 判定保留	判定不可	件数	陰性	陽性	陽性 判定保留	陰性 判定保留	判定不可
10歳未満	1	1					2	2				
10～19	5	5					1	1				
20～29	21	19	1	1			28	27			1	
30～39	30	25	2	2	1		34	27	3	1	2	1
40～49	31	23	2	2	3	1	24	18	4	1		1
50～59	14	9				5	28	24	1		2	1
60以上	7	7					5	5				
合計	109	89	5	5	4	6	122	104	8	2	5	3
合計(%)	47.2%	38.5%	2.2%	2.2%	1.7%	2.6%	52.8%	45.0%	3.5%	0.8%	2.2%	1.3%

表6 レジオネラ属菌検出状況

		公衆浴場	高齢者福祉施設	スポーツ施設	宿泊施設	冷却塔水	喀痰	患者 関連調査	計
L.pneumophila	SG1	1		2		1			4
	SG3	5		2					7
	SG5	5	1						6
	SG6	9	1	6		1			17
	SG7					1			1
	SG8	4	1	3					8
	SG9	3							3
	SG10	1	1						2
	SG12	1							1
	計	29	4	13	0	3	0	0	49
	総検体数	177	27	49	3	6	7	13	282

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査事業ならびに感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体のウイルス、リケッチア及びクラミジア検査、「食品衛生法」に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルス検査及び衛生動物検査を行っている。

ア 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査

市内定点医療機関において咽頭結膜熱、手足口病、無菌性髄膜炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎並びに脳炎・脳症と診断された患者から採取された223検体について、細胞によるウイルス分離培養、PCR等で検査を行ったところ192件からウイルスが検出された。その月別件数を表1、疾患別件数を表2に示した。

イ 感染症対策におけるウイルス検査

(7) 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

小学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、7集団でインフルエンザウイルスが検出された(表3)。

(4) 発熱発疹性ウイルス検査

麻疹ウイルス疑い症例における病原ウイルス検索のため、患者35名の検体についてRT-PCR+シーケンス法を行った。その結果、麻疹ウイルス8例、風疹ウイルス12例が検出された。(表4)

(7) デングウイルス検査

海外渡航歴のあるデングウイルス感染疑いの患者9名についてRT-PCR法ならびにリアルタイムPCR法による検査を行ったところ、デングウイルス1型が2例検出された。(表5)

(1) リケッチア・クラミジア検査

ツツガムシ病、日本紅斑熱ならびにオウム病が疑われる患者について検査を行ったところ、4名からオウム病クラミジアが検出された。(表6)

ウ ライトトラップによる蚊の捕獲と蚊媒介ウイルス検査

ウイルス検査

市内7箇所8地点の保健所等でライトトラップを設置し、平成25年6月から11月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊183プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイル

スは検出されなかった(表7)。

エ 食中毒等起因ウイルスならびに食品等のウイルス検査

食中毒等で搬入された331検体についてリアルタイムPCR及びRT-PCRを行ったところ、ノロウイルス127件(GⅠが22件、GⅡが105件)ならびにサボウイルス1件が検出された(表8)。また、食中毒に伴う食品検査ならびに市内に流通している食品(生かき)等186検体について検査を行ったところ、17件(G1が7件、G2が10件)からノロウイルスが検出された(表9)

表1 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	25.4	5	6	7	8	9	10	11	12	26.1	2	3	合計
検査件数	4	2	4	19	5	11	6	4	14	89	46	19	223
分離数	4	2	2	13	3	7	5	1	13	84	44	14	192
インフルエンザウイルスAH1pdm09									4	42	9	5	60
インフルエンザウイルスAH3	2	1					1		6	13	5	6	34
インフルエンザウイルスB ^レ 外リア系統		1								10	7		18
インフルエンザウイルスB山形系統	2								2	12	12	1	29
インフルエンザウイルスB系統不明										5	10		15
アデノウイルス 2型				1									1
アデノウイルス 3型				1									1
アデノウイルス 41型			1										1
コクサッキーウイルス A6型				8	1								9
コクサッキーウイルス A9型					1								1
コクサッキーウイルス A16型								1					1
コクサッキーウイルス B1型										1			1
コクサッキーウイルス B3型			1				1						2
コクサッキーウイルス B4型						1							1
コクサッキーウイルス B5型						2							2
エコーウイルス 9型						1							1
エコーウイルス 18型					1		1						2
エンテロウイルス 71型						1							1
パレコウイルス 3型						1							1
ライノウイルス				2									2
サイトメガロウイルス							2		1		1		4
ヘルペスウイルス 6型				1		1						1	3
ヘルペスウイルス 7型												1	1
ノロウイルス GⅡ.4										1			1

表2 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（疾患名別）

	咽頭結膜熱	手足口病	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	感染性胃腸炎	インフルエンザ	合計
検出数	1	14	13	6	2	156	192
インフルエンザウイルスAH1pdm09						60	60
インフルエンザウイルスAH3						34	34
インフルエンザウイルスB ⁺ 外リア系統						18	18
インフルエンザウイルスB山形系統						29	29
インフルエンザウイルスB系統不明						15	15
アデノウイルス 2型		1					1
アデノウイルス 3型	1						1
アデノウイルス 41型					1		1
コクサッキーウイルス A6型		9					9
コクサッキーウイルス A9型			1				1
コクサッキーウイルス A16型		1					1
コクサッキーウイルス B1型			1				1
コクサッキーウイルス B3型			2				2
コクサッキーウイルス B4型			1				1
コクサッキーウイルス B5型			2				2
エコーウイルス 9型			1				1
エコーウイルス 18型			2				2
エンテロウイルス 71型		1					1
パレコウイルス 3型			1				1
ライノウイルス		2					2
サイトメガロウイルス			1	3			4
ヘルペスウイルス 6型			1	2			3
ヘルペスウイルス 7型				1			1
ノロウイルス GⅡ.4					1		1

表3 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検査				ウイルス型
			AH1pdm09	A香港型	B型山形系統	B型ビクトリア系統	
H25.12.11	中原区小学校	5	0/5	0/5	0/5	5/5	Bビクトリア系統
H26.1.17	川崎区小学校	2	0/2	0/2	1/2	0/2	B山形系統
H26.1.17	多摩区小学校	3	0/3	0/3	3/3	0/3	B山形系統
H26.1.21	宮前区中学校	3	0/3	2/3	0/3	0/3	AH3
H26.1.22	麻生区小学校	5	0/5	0/5	0/5	3/5	Bビクトリア系統
H26.1.28	幸区小学校	3	1/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
H26.1.28	高津区小学校	5	0/5	0/5	4/5	0/5	B山形系統

表4 発熱発疹性ウイルス検査状況

発症年月	25.4	5	6	7	8	9	10	11	12	26.1	2	3	合計
検査件数	3	8	5	3	3	0	0	2	0	5	4	2	35
麻疹ウイルスB3型										3	1		4
麻疹ウイルスD8型					1							1	2
麻疹ウイルスD9型											1	1	2
風疹ウイルス1E型				1									1
風疹ウイルス2B型	2	5	1	1	1						1		11

表5 デングウイルス検査

発症年月	25.4	5	6	7	8	9	10	11	12	26.1	2	3	合計
検査件数	2	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	9
デングウイルス1型					1		1						2
デングウイルス2型													0
デングウイルス3型													0
デングウイルス4型													0

表6 リケッチア・クラミジア検査

発症年月	25.4	5	6	7	8	9	10	11	12	26.1	2	3	合計
検査件数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	11	13
ツツガムシ群リケッチア													0
日本紅斑熱群リケッチア													0
オウム病クラミジア												4	4

表7 ライトトラップにおけるウエストナイルウイルス、デングウイルスならびにチクングニアウイルスの検査数と蚊の種別捕集数

平成25年採取日	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
川崎保健所	5	10	8	5	2	3	33
幸保健所	4	6	4	4	2	0	20
中原保健所	6	9	7	6	2	0	30
高津保健所	5	5	5	4	4	0	23
宮前保健所	5	7	6	8	8	2	36
多摩保健所	3	6	6	2	3	1	21
麻生保健所	4	5	5	3	3	0	20
合計	32	48	41	32	24	6	183

蚊の種類	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
アカイエカ群	182	256	80	49	40	7	614
ヒトスジシマカ	10	59	157	179	57	5	467
ヤマトヤブカ	0	0	0	0	0	1	1
総計	192	315	237	228	97	13	1082
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

表8 食中毒起因ウイルス検査

年月	便検査数	ノロウイルス		サボウイルス
		G1	G2	
25.4	35	16	2	1
5	29		1	
6	8			
7	14	1	1	
8	8		4	
9	1			
10	5		1	
11	62		24	
12	40		27	
26.1	107	2	35	
2	7		1	
3	15	3	9	
合計	331	22	105	1

表9 食品からのノロウイルス検査

年月	検査数	ノロウイルス	
		G1	G2
25.4	51	4	0
5	33	1	0
6	0		
7	0		
8	0		
9	0		
10	0		
11	42	0	1
12	6	1	3
26.1	51	0	4
2	3	1	2
3	0		
合計	186	7	10